

授業方法について独自に工夫している点と、アンケート結果を受けての改善点【創造科学系】

専門内容に対する理解をていねいに行うために、中学生段階の理解度を意識しつつ、専門用語の細分化については、学習上の必然性と関連付けを意識して行う工夫をした。材料系の学習については課題を残したと思う。教科内容科目についてのアンケート結果では、「どちらともいえない」との回答が20%以上いたため、自身の理解に対する確信をもてるまでにいかなかったのかもしれないと思った。

音楽の特に実技を含む授業に関しては、遠隔ではどうしても対応が難しいところがあり、対面であれば伝えられることが伝えられないもどかしさがありました。実技がメインとなる授業については、やはり対面で生の音を通すことが望ましいと考えています。一方で講義が入るものは、なるべく伝わりやすい言葉や音源も使うことを試みました。もし、また今後遠隔の授業をせざるを得ないことになったら、動画作成を取り入れることや、個々の取り組みに終わらず、遠隔であっても仲間と一緒に学ぶ内容を取り入れることができるように、工夫していきたいと考えています。

学生の皆さんからはかなり手厳しいご意見をいただきました。とくに、実技を文章説明で行っても、授業内容の理解は難しいとの指摘には反論が難しいところです。自己の身体経験の類体験を覚醒させて、反省分析しながら内容理解に迫って欲しいという意図で種々課題を講義内容に盛り込みましたが、その意図さえよく理解されていない様子も多々うかがえました。様々なご意見から改めて実技の大切さと、実技で取りあげるべき本質的内容を気付かされもしましたので、今後、実技授業およびオンライン授業のなかで可能なことを探りたいと考えております。

独自に工夫している点は、各講義の目標に沿った課題やレポートを課している点です。アンケート結果を踏まえ、フィードバックを増やしたいと思います。また、実習関係では、対面を希望する声が多かったので、次年度も、可能な範囲で対面を行いたいと思います。

コロナ禍における初めての試みであったため、来年度も同じ授業形態であればさらなる改善に努めたい。

新型コロナで、3密を避けるため、50人を半分ずつのクラスに分けて授業を行う。実技中心の授業のため、6月までは自宅で学ぶ課題と、7月以降は道具を使用して行う課題を対面で行った。

今年度の前期は全ての授業が遠隔オンラインだった。実技という授業の性質上、大変難しく、生徒も大変だったと思う。やはり対面を求めている声もあれば、感染が怖く遠隔オンラインでよかったという声もある。学生全員が満足いく授業体制を展開することは、今の現状でとても難しいと感じる。

①事前に授業計画を提示し、②資料の中には視聴覚教材のリンクも案内して、③課題で理解の定着を図りました。この学習スタイルで能動的と受動的の両方の意見をいただきました。受動的だったという点とアンケート結果を受けて次の改善を図ろうと考えます。①に関しては誤字脱字などでご案内がうまくできていなかった点は改善します。②資料が細かすぎるという点は、精選したりQRコードを併用して、適切な情報量になるように改善したいと考えます。③課題へのコメントに対しては理解の定着に際してはよかったというご意見をいただいた一方で、課題の回答例を示してほしかったとありました。また字数制限にばらつきがあったとありました。課題へのコメントは継続し、回答例と字数の目安の提示をして、取り組みやすい課題による理解の定着を図ることができるように改善したいと考えます。

まなびネットを使いながら、Cラーニングを使っています。CラーニングはスマホをベースにつかうLMSです。主体的・対話的で深い学びを実現しやすい手軽なものです。学生から意見がありました。

「Cラーニングを活用した授業だった。他の受講生の回答をいつでも見られるようになっていたので、対面でもなくても学びが深められたと感じた。むしろ、一人一人が回答をしななければいけないので、多くの考え・意見に溢れていて、大人数での対面授業よりも有意義だった。」「動画で分かりやすく、利用していたシステムも課題に回答しやすく、また他者の意見の共有が簡単だったために遠隔でも対話的な活動となったのではないかと思います。非常に有意義でした。」「この授業に関しては、オンラインでもなりたい。」

改善点は実技を伴うものについて「対面でもなく学べない」という意見が多く、確かにまっとうな意見があったが、コロナ禍で仕方ない部分だと思えます。次年度以降、実現に向けて模索していきたい。

オンデマンド用に音声付きパワーポイントの授業資料を作った。対面であれば、図表を指し示しながら説明できるが、それができないので、スライドに色の矢印や囲み、下線などを挿入し、説明している部分ができるようにした。また、科目の性質上、自分自身の生活や生き方を振り返り、学習したことを実生活に生かすことにつなげたいので、課題は授業内容を踏まえて自身のことを書いてもらうものにした。他の学生の意見を聞いたり話し合いができないので、提出された課題の中から何人かのものを紹介した。
改善点は、課題の提出締め切りを長くすることと、文章を書くことが得意でない学生の意欲が低下しないよう課題の字数制限を緩くすることである。

本来は対面授業でピアノを習う授業であるため、「ピアノ実技が出来ず残念だ」という意見が多く見られたが、全くその通りだと思う。しかし、楽器を持たない環境にある学生もいるため、こればかりは私にはどうすることも出来ない。代わりに楽典という分野を行っているが、思ったよりも好意的な回答が多く安心した。とにかく遠隔授業ではピアノが弾けるようにはならない。せめて、いつか楽器に触れる機会があったときに助けになるように、楽譜が読めるようにと遠隔授業で指導してる。また、実際の教育現場では使わないかもしれないが、知識を持っていて困ることはないと思いながら授業を進めている。

今回は遠隔授業になってしまい、音楽という科目の特性上、やりとりしながら実技をすることができない環境で授業をしなければならぬ制約に大変困惑した。しかしその制約があっても、授業内容を読み進めたり、課題を行う中で自分自身が様々な体験することにより、気づくこと、感じること、発見すること、ができるようにし、それらが指導する際のヒントになるようにすること、などを心がけて授業展開を行った。また、課題に対するフィードバックを一人一人に丁寧に行い、できるだけ個別対応するようにした。だが、アンケート結果にもあったように、対面授業ならばもっと授業内容を理解しやすくなる部分は多々あったと思われる。また、文章のみの説明で段階を追って理解してもらうには、授業内容の量も課題の量も多くなってしまったかと思われる。課題に取り組む日数などは、もう少し考慮することも必要かもしれない。

授業方法について、独自に工夫されている点
学生が自ら学習できるように
アンケート結果を受けての改善点
具体的な文献や書籍を示す

- ・早めの課題や資料の提示を心掛け、学生が自分のペースでじっくり課題に取り組めるようにした。
- ・課題提出期限を月末にして、締め切りを分かりやすくして計画的に取り組めるようにした。
- ・提出された課題の評価を早く行い、不安を軽減できるようにした。
- ・問1・2の設問の回答において「強く・ややそう思う」の割合がどちらも65%程度であった。さらに、イラストや写真、教科書など資料を精選して添付することにより、活動のイメージや課題が学生に理解され、調べ考える必要性がでるように工夫していきたい。

毎回何かしらのコメントや不正解の解答説明を必ずコメント欄に記入した。高度な音楽専門知識のため課題の他に復習テストなどで対策した。しかし「わからないところを聞けなかった」などの意見もあったため、質問がある場合はメールで聞くようにと毎回のコメント欄に追加記入したい。
一方でピアノに触れる事が出来ず残念だったとの意見も多かった。

まず、授業方法に関しては、しっかりとシラバスに説明し、それに沿って誠実に授業を実施するように心がけた。特に、遠隔授業で実施したので、教科書を指定した授業は、学生が何度も教科書を読むことを誘導する工夫を資料にて行なった。数式が多い授業はどうしても最初の段階から、学習意欲をなくしているように思われる。対面授業の時は、キャッチボールを繰り返し、なんとか学習意欲を繋げていけたので、可能な限り対面授業を織り交ぜたい。特に、実習は、対面授業で実施したい。解説的な授業に関しては、遠隔授業であってもスライドショーで実施できるので、学生にはスムーズに受け入れられると感じるが、矢張り、学生の深い学びを期待すると、対面授業を織り交ぜることが望ましいと考える。

・今回は実技指導ができないため、指導のポイントやスポーツ種目の授業を実施するための知識を身につけること、学びを深めることを目的に課題を作成した。結果、「教員の立場になって考えることができ、指導のイメージもしやすかった」「それぞれの種目で授業内容を考えることができた」という声も挙げられていた。実技中は体を動かすことに必死になりやすいため、知識として学ぶにくい部分もあるのではないかなと思う。課題提出により各種目について知識を学ぶ良いきっかけになったのではないだろうか。しかしながら、学生同士の交流機会が減少してしまった点は今後改善できる点であると感じた。互いに意見交換しながらスポーツや各種目について考える機会をつくり、上記の問題についてはある程度解決できたかもしれないと感じた。

他の教員の方法について広く全体を見ていないため、授業に独自性であるか否かの判断はし辛い。学生の意見にもあるように、実技系の授業では実技を対面式で実施する方がやはり望ましい。ただ、遠隔用の資料を作成することで新たな気付きもあり、今後の対面式授業に生かせる準備にもなったと思われる。

授業回ごとに、主体的な学びができるような課題構成にし、惰性での作業になってしまわないよう、毎回制作を振り返るようなレポートを課した。制作は簡単に終わらせることもできるため、少し多めに課題設定をしたことが、人によっては負担が大きかった要因かもしれない。オンデマンドでは、学生の制作状況が見えないため、授業回ごとに、臨機応変に内容を増減することができない。今後はオンデマンドと対面を上手く組み合わせることで、改善できる可能性を探りたい。

授業方法の工夫点について、実技科目はなるべく運動を伴う内容で実施しました。特に前期はオンラインであったため、リアルタイムで自宅で行える実技を行い、画面を通して学習者の動きを観察し、即座にフィードバックをしました。グループ分けをして創作したり、画面上で動きを真似しあったりなど、なるべく学習者の対話的な学習を入れながら関わりを持たせて授業を行いました。

アンケート結果は、対面での実技を望む声がありましたが、オンラインだからこそよい効果もあったという声もあり、オンライン授業の質をより上げていく必要があると感じました。

学習指導要領家庭編の解説・理解、小学校家庭科教科書の解説・理解、指導案づくり・学生による模擬授業の3本柱で授業を行っている。具体的には、①苦手意識の高い「裁縫」の技能向上、苦手意識の克服、ものづくりの楽しさを感じる教材を開発し、②基礎技能を教える際にICTを活用することで、実際の授業のヒントになるような授業構成を考えている。模擬授業の際に、学習ボード、NHK for school「カテイカ」、デジタル教科書等の有効活用も紹介している。

コロナ禍での対面授業、遠隔授業、Microsoftteamsによるオンライン授業のあり方を模索して行った。それぞれ意図をもって、工夫して計画したつもりである。対面授業とリモート授業を同時開催し、学生の選択制にしたが、個々の学生の事情が異なるので、さらに配慮する必要性を感じている。

学生が今後の教員生活や社会人としての生活の中で、実際に使う場面を想定して授業内容を考えています。今年はグループワークの形をとることができませんでしたので、学務ネット上で学生の提出物にコメントを記すことで、学びを深めてもらうよう致しました。アンケートでは、評価は良い方でしたので、安心しました。

授業で使用する予定であったスライドを画像の多いものに修正したこと、テキストを簡明に入れて入れたこと、課題レポートは授業全体を俯瞰しないと書けないものとするなどについて、工夫しました。

アンケートは24人中4人の方からの結果であったこと、複数の教員による授業でしたので個別の教員の授業への答えではなかったと思われることなどから、判断は難しいところです。自由記述でのコメントをいただけなかったことは残念に感じます。

自己反省する点としては、前期の授業は急に遠隔授業をすることとなり、十分な準備ができたとは言えなかったこと、講義の双方向性という点では不十分であったことなどがあります。これらを踏まえて、次年度の講義では、修正・改善をすすめたいと思います。

授業で使用する予定であったスライドを画像の多いものに修正したこと、コメントを簡明に入れたことなどについて、工夫しました。

アンケート結果の自由記述の意見では、レジュメが多かったこと、テキスト説明部分が少ないこと、初めの頃に資料の公開が遅れたこと、教科書との違いがあったこと、公開期限や提出期限が短かったことなどがあげられていました。ほとんどの意見は、自分が講義を受ける立場であれば、もっともなことと感じました。

反省する点としては、前期の授業は急に遠隔授業にすることとなり十分な準備ができたとは言えなかったこと、レポート課題の内容が授業の中の重要項目に限定的であり、全体を俯瞰するものではなかったこと、また双方向性という点では不十分であったことなどがあります。これらを踏まえて、次年度の講義では、修正・改善をすすめたいと思います。

前半は遠隔授業でデザイン理論について話しをし、レポートを課しました。

後半は実技を行いたく対面授業を開始しましたが、またいつ遠隔に戻っても大丈夫な課題にし、主にデジタル表現のトレーニングを行いました。

デジタルで行える実技課題は遠隔授業とも相性がいいですが、それでもやはり対面と比較して細やかな指導が難しく、今後遠隔で行わざるを得ない場合の方法を模索する必要があると感じました。

前半は遠隔授業で鑑賞を中心に行いました。遠隔で行うのは初めてでしたが、学生が興味を持ちそうなテーマを選び、論述してもらいました。実技課題は遠隔で行うのに限界があるため、後半は対面授業をし、グループではなく、個々が課題に向き合えるテーマとしました。美術専攻以外の学生が取っているので、フラットな状態で取り組めるテーマとしています。概ね評価は良いと思われ、適切に行えたと思います。

(2クラス分の回答です)

1. 工夫した点

遠隔授業ということで以下の内容を工夫した。

- ・初回の時点で、全15回分の授業コンテンツをクラウドにアップし、履修学生が自分の進捗で学習に取り組めるようにした。
- ・動画やビデオ会議システムでは、データ容量が過度になり、学生のパソコンでの不具合が予想されたため、音声付パワーポイントのスライドショーデータとした。
- ・実技内容は、家庭でできる内容に規模や材料を変化させ、実技力が向上する方法を具体的に伝えるようにした。
- ・毎授業ごとに提出課題に対して講評をアップし、振り返りができるよう配慮した(双方向性の担保)。

2. 改善点

・聞き逃した箇所があった際に、巻き戻して見ようとする、パワーポイントのスライドショーではスライド1枚分戻ることになる。そのため、1枚のスライドで10分しゃべっていた場合、10分前から聞き直さなければならないことの苦情があった。パワーポイントのスライドショーでは限界があるが、今後ソフトの改善か、対応策があるか検討したい。

保健体育講座では教員の個人レベルでの授業形式の選択をしないことになっており、前期はすべて遠隔授業での開講となりました。よって、対面の授業について選択することができずでしたので、アンケートの自由記述にあるような対面の方が良いという意見は、授業ごとの目的が達成できたかについての意見ではないため、質問の本質から回答が外れていると考えます。これまでに実技で行ってきた授業に関しては、今年度は遠隔により学修していくことになったことで、規定に準じて目的を満たすことができるように授業を計画し、実施しました。よって、実技で行う場合の学習効果の期待についての学生の評価は、的外れな回答であると考えます。技能を身につけることが目的ではないため。我々教員の説明不足という点は改善しなければならないが、対面を前提とした考えはコロナ禍であるということに関係なく、コロナ禍前から規定上可能であったことを鑑みると、遠隔授業での学びについて、教員の質向上を目指すことも重要ではあるが、学ぶ側の学び方についての改善も必要になってくると考えます。改善点については、後期に関して実施していることで、わからない学生のために対面授業の時間を設定して、ハイブリッド型の授業を行っています。完全に遠隔の授業でも、希望者には補填の対面授業を行うことは教員学生両面から考えて有益であると考えます。

①授業に対するアンケートの回答は「強くそう思う」と「ややそう思う」を合わせて、問1の「自分で問題点を深く考えた」で80～90%超であり、問2「文献やインターネットなどで調査」において60～90%超であったことから、おおむね良好な結果が得られたと思っている。学生の中には、興味を持って、調べるという行動に移さない者も一定数いるようなので、今後は、「調べ学習」の内容を盛り込んだ授業内容を取り入れようと考えている。

また、自由記述からは「楽しかった」「繰り返しスライドを確認できるのがよかった」「家で作品作りができてリラックスできた」「提出時のコメントなど丁寧であった」「メールの返信はとても早く、質問事項についてはすぐに解明できたので助かった」などの肯定的意見があったが、「一人で描くのはちょっと辛かった」「他の子の作品も見てみたかった」「ディスカッションができない」「提出場所や期限があいまい」などの意見もあったことから、遠隔授業については不満の声もあるので、さらに一層「双方向」かつ「学生相互の意見交換が可能」な遠隔授業が可能となるよう、技術的な工夫が必要だと感じた。提出期限については、締め切りに間に合わない学生を救済する目的で、提出日を当初よりも遅くすると、多くの学生が遅い方の期日に提出するようになるので、救済措置については悩ましいところである。

②コロナウィルス感染拡大のため、宿泊を伴う集中講義である本授業は開講することができなかつたため、次年度以降に「宿泊を伴わない」方法で実施しようと考えている

①
配付資料は教員になったとき、そのまま授業計画に活用できる内容にしました。
「実技がやりたかった」とのコメントは状況が改善されれば実施する。

②
「読めば分かる資料」をコンセプトにオンデマンド授業とした
「資料が分かり易かった」とのコメントをもらい、さらにバージョンアップを目指します。対面との両用を目指します。

③
指導案作成シミュレーションの授業。読めば分かるマニュアル風にした。質問はメールにて受け付けた。
「指導案作成に専念できた」とのコメントがあり、概ね目的達成だと思いますが、対面でのピアレビューを実施できるようにしていきます。

工夫していること

- ・最新の動向や状況をふまえた具体的な資料を提示すること。
- ・読みとること、書くこと、考えること、考察することの一連の流れを位置づけること
- ・科学性、実証性など、卒業論文の作成につながる思考する場面を位置づけること
- ・練習的なこと、コツをつかむことなど、スキル(技能)の習得を位置づけること
- ・学生のコメントを把握し、授業に反映すること

改善に向けて

- ・コロナ禍の中で、前期は遠隔のみの授業という特殊な環境におかれ、オンライン(リアルタイム)の通信環境が十分ではない、との状況下にあると判断し、「まなびネット」に資料と課題をアップする方法を選択した。通信環境の改善をつよく希望する一方で、8月以降はYouTubeを活用することが多くなっている。いろいろな方法が選択できること(←大学に対して望むこと)、また授業する方としては多様で多彩な方法を選択し授業改善をすすめることが課題。
- ・引越し等の計画(：創造科学系)、担当業務の増加などがあり、それらに膨大な時間を割かなくてはならなかった。コロナ禍に特殊な状況が重なったことは正直なところキビシイものがあった。

まなびネットを通した課題提示だけでなく、Microsoft Teamsを用いて補足説明する等、工夫した。
課題に取り組むことで何が習得できるか、出来る限り、丁寧に説明するよう心掛けた。

授業方法

2020年度前期授業は全15回をすべて遠隔で行った。

資料掲載をしたのは、まなびねっとである。

課題の提出先は、レポートはまなびねっと、演奏の動画はLINEである。

工夫した点

前年度までの対面授業において、担当科目の主な学習内容は以下であった。

- ①音楽科学習指導要領についてのグループワーク
- ②指導計画作成のグループワーク
- ③歌唱共通教材の演奏
- ④音楽づくり、日本音楽の授業の実践紹介および実践

今年度前期の遠隔授業では、それぞれの学習内容を、以下のようにした。

- ①グループワークは遠隔授業では不可能だったゆえ、それぞれに課題を提出してもらい、何人かのものを全体に共有した。そのうえで、各自、まとめの課題に取り組んでもらった。
- ②上と同じく、指導計画作成の課題を提出してもらい、何人かのものを全体に共有した。そのうえで、各自、音楽科学習指導案作成の課題に取り組んでもらう、期末のレポート課題とした。この、学習指導案作成の課題に対しては、前期終了後、提出者全員に講評をメールにて送った。
- ③歌唱共通教材の把握が、本講義の重要事項のうちの一つであった。それぞれが、しっかりと課題に取り組んでほしかったゆえ、演奏動画の提出という方法をとった。まなびねっとに動画を提出することができなかったゆえ、授業用のLINEアカウントを用意し、そこに提出してもらうこととした。必要に応じて、提出された演奏に対するアドバイスをを行った。
- ④上と同じく、演奏動画を提出してもらうかたちをとった。いくつかの演奏課題において、何人かのものを全体に共有して、鑑賞の学習とした。

改善点

2点挙げる。

- ①「一緒に」ということが遠隔授業では不可能であるということが、一番の痛手であった。演奏動画を提出してもらっても、「指導者と受講生」という1対1の枠から抜け出ることが難しく、対面授業時の、受講生の互恵的な学びが生まれないのも悩んでいた。「演奏動画を共有→鑑賞→まなびねっとの掲示板を利用して各々の感想を述べる」という方法を利用して「指導者と受講生」という1対1の枠から少しでも脱却したく思う。また、指導者のみからだけでなく、同じ受講生からのフィードバックを得ることで、次の学びにつながることを期待する。
- ②飛沫という感染リスクを考えると、リコーダー演奏と歌唱の学習は、しばらくは遠隔授業で自宅にて取り組んでもらわざるを得ないと考えている。しかし、学習指導要領や学習指導計画の検討のグループワークは、対面授業で行えるように準備していきたいと考えている。

本来はピアノの実技の時間でしたが、今年度はピアノに触れることができず、他の方法、座学でできる音楽を探しました。そして音符の名前、楽語といった音楽の基礎や小学校音楽の教科書の内容からもいくつか取り上げ対応しました。しかし私がパソコン初心者だったためわかりづらい点が多々あったと思います。文字や資料だけでは伝わらない専門的な部分もあったと思います。

提出課題の様式がバラバラだったり、記入しづらいといった指摘ももらいました。

ピアノが弾きたいという声ももらいましたが、今後もネット対応の授業のみの場合は指摘いただいた点を改善していきたいと思っています。

いずれの授業もわかりやすさが非常に重要で、提示した資料についてわかりやすさに工夫した。重要な事項は繰り返し説明した。遠隔授業であったため、教員からの講義だけではなく、受講者と教員のやりとりを交えることができず、受講者からのアンケート結果でも対面授業に比べての困難さの指摘があり、資料についてさらに工夫の必要があると思われ改善に努めたい。授業では毎回課題の提出をオンラインで求めたが、積極的に受講者が資料など調べ提出したことが、アンケートからもうかがえた。

①工夫したことは、大学に入学しても、オンオンラインで誰とも繋がれない状態だということを知り、オンデマンドよりもリアルタイムのZOOMの方がいいと考えて、授業を行いました。
実技を見せて質問ができる双方向の指導に心がけました。実技の後、画面上で作品を見せながら自己紹介、作品紹介、今困っていることについて話すことで学生同士がつながることができる様に、ZOOMの機能にあるブレイクアウトルームを多用しました。

授業アンケートについても、グーグルフォームを使い、講義の中で入力してもらい、集計結果を見せるなど行いました。
改善点としては、実技の作品が残る様に、スケッチブックを指定して描かせるなどすると良かったと思います。

②昨年度からの美術教育を担当している学年で、教育実習を控え模擬授業をしながら、発問の仕方、指示の仕方、教師としての振る舞いなど、現場で必要と思われることに対して指導を進める予定でしたが、オンラインになってしまい、模擬授業など全くできない状態でした。ZOOMを使い話し合い活動など行いたいと思っていたが、話し合いの元となる模擬授業ができなかったために、指導案作りなどで終わってしまったことが残念です。ただ、実技の様子を説明する動画作りという課題を作ったことで、多少、現場でも使えるアイディアの種を伝えることができたかと感じています。
突然の休講、オンラインという状態で学生は、よくがんばったと評価したいと思います。

前期はオンライン授業であったので、声楽と言う実技授業は難しいと感じた。しかし、私としては当初思っていたより、うまくできたかと思っただが、学生からは、オンラインによる授業への不満(私の指導に関してではなく)があり、また、今後もオンラインでしなくてはいけない時には、改善すべき点も多少あるようである。

学生個々の声、音楽性を毎回のレッスンで考慮し、ひとりひとりの学生に対して指導をしている。
今のところ、改善点は無いと感じている。

その学生の声や音楽性を、毎回のレッスンで考え、ここに応じた指導法を考えて授業を行なっている。
改善点は、アンケートの回答が一人しかいないので結果を受けて考えることが難しい。

いずれの授業も6月1日より対面で実施したが、遠隔授業の継続を希望する学生には音源提出とレポート課題などで対応した。

対面授業は、正規の時間枠を延長拡大して、通勤通学ラッシュとなる時間帯に受講生の通学時間帯がかからないようにした。さらに他のオンライン授業(オンタイム)が終了してから通学する授業は、2限の正規開講時間枠を午後へ移動して実施した。

アンケートから、遠隔の音源・レポート課題は、学生に負担が大きいことが分かった。また音を出すことのできない者も少なく、公園や河川敷、車の中で録音した者もいた。音を出す授業の場合、遠隔の実施方法について今後検討したい。

同じ題目の同じ時間帯に授業担当者が複数いたことから、多岐に渡る体育・スポーツに関わる視点を提示することにつながった。その結果、受講生にも実技以外の課題内容そのものへの関心があることがわかった。担当者が複数であったよさであると感じている。

遠隔授業で動く機会の減少した生活の中で、個々の体力や時間的な条件に合わせて運動する機会になったことは一つの成果であった。

しかし、広い場所で活発に全身を動かす場とは言い難く、他者との関わりが制限された生活で、運動を通して他者と関わりを持つ場にはならなかった残念さが学生の記述に現れていた。

全て遠隔で実施せざるを得なかったことは、運動を好まない学生にとっては体を動かさずに済むという印象につながったように思われ、教育学部という学部を考えると、実施内容と方法の検討の必要性を感じる。

家の中でできる運動課題という条件から、担当3回の内容を音に合わせて動く体操系を設定した。できるだけPC等のネット環境から離れられるようにとは思って内容を検討した。体を動かした効果を感じた人もいたことがわかり、ホッとできる要素もあった。

しかし、アンケート結果の自由記述から、動きの説明などで計10~15分程度動画を用いることもあり、PC等から離れるために充分だったとはいえなかったと受け止めた。

課題レポート等に取り組むだけになって「何を学べばよいかわからなかった」という意見を真摯に受け止めたい。

長時間PC等情報機器で学ぶことそのものによる、視覚への負担、一定の姿勢が続くこと、歩行時間そのものが減る生活になりやすい状況で、感染防止の観点から遠隔実施するスポーツ実技をどのように実施するとよいかの難しさを感じた。

対面形式での授業を実施することができなかつたため、レポート課題の作成をおこなった。課題については学生が少しでも興味を持つように、関連した動画を資料として用意した。

球技に興味がある学生が多くいたので、来年度は少しでも対面で授業ができるように準備していきたい。

二つの授業では基本的な事項や情報などを記載したプリントを作成して配布するとともに、美術作品に関する内容が主体であるので作品の画像に説明を加えたスライドを作成し、音声データと共に「学びネット」にアップした。また、オンデマンドの遠隔授業であったため、毎時間講義内容をまとめる小レポートを課し、寄せられた質問に対して毎時間回答した。

今回のアンケートの回答率は47.2%、23.5%で例年よりやや低かった。回答を寄せたのが授業に意欲的に参加した履修学生が多かったせいか、例年より問1・問2ともに評価が高かった。これは、授業内容を何度も見直せたり、授業資料を拡大したりできる遠隔授業の良さが反映されたのかと考える。一方、講義内容をまとめることを課題とした小レポートについて負担が重い等の意見があり、字数の見直しなど改善を図りたい。

遠隔授業については、おおむね学生の評価は肯定的だった。課題の分量をレポート鬱にならないよう配慮したことや、提出期限を柔軟に対応したことがよかったと思われる。一方で、対面形式による講義をしてほしかったという意見もあり、コロナが終息したのちは対面形式に戻したいと思う。

スポーツは前期の間、実技はなく全てレポートに終わった。学生も仕方ないとわかりながらも、実技をしたかったことが、アンケート結果から十分伝わってきた。

レポート課題は、彼らは教員志望であることを踏まえ、クラブ活動(部活動)で起こりうるであろう場面を想定し、教員として如何なる考えを持ち、児童生徒と接していくかを問うようにした。ただ、レポートのフィードバックができるシステムではなかったと思われるので、レポートの添削をして、学生とやりとりができなかったのが、残念だった。

来年度は、できる限り、少なくともいいので、実技の場面を用意できればいいと考えます。

平成24年度から中学校において武道が必修化となっている。学習指導要領では、「柔道」技能のねらいは、「相手の動きに応じた基本動作から、基本となる技を用いて、投げたり抑えたりすることなどの攻防を展開すること。」としている。

本年度は、コロナ禍の影響で遠隔授業で開始し、収束に向かえば実技授業開始という期待もありましたが、前期期間終了まで遠隔授業実施となり、柔道場での活動が一切行えない条件での展開となり、大いに戸惑った。

前半(1～6)は、柔道の歴史、礼法など、また学習指導要領に記されている例示の技などを課題レポートの提出によって理解を深めることとした。

中盤(7～11)は、私が作成した「動画」を参考にし、各自の限られた環境の中で「基本動作」「受け身」又は、一人での「投げ技、抑え込み技」などの技術修得を目指し、反復練習を課した。

12時間目では、11時間目までに取り組んだ成果を「動画」で報告して貰い、それらを確認した。

終盤(13～15)は、安全指導と関係深い審判規定の理解、そして単元計画の作成などを課題とし、将来の現場での安全で楽しい授業展開を考える機会とした。

環境が整わない中での授業であったが、それぞれが与えられた課題に良く取り組めたと思います。

しかし、この遠隔授業では、柔道の特性である伝統的な行動の仕方を守ること、また礼に代表される伝統的な考え方の重視などといったことなどのとても大切な事柄の理解を促すことは困難であったと思われ、この点は残念であった。

初等教育(体育科目)における教育方法を学ぶ科目であるため、文部科学省で提供するビデオ教材のうち、関心のあるビデオを1つ選択し、学習指導要領解およびその解説を参考にしながら、低学年、中学年、高学年における学修能力をどのように理解し、その学年間のつながりを意識しながら指導すべきか、をレポートすることで、授業カリキュラムや授業課題を意識した学修となるように課題を構成した。

今年度はオンデマンド形式での遠隔授業になってしまったため、自発的に取り組むことができず学びが多かったという学生がいる一方で、社会的情勢が改善された際には、運動活動を伴った学修を望む学生がいたことを踏まえたカリキュラム構成にしていく所存である。

これまでの(昨年まで)の授業では、特に実技では事前学習を課した上での対面授業を行うことは、まれであった。今回、全ての回を対面ではなくオンデマンド形式で実施せざる得なかつた状況で、学生がどのような感想を持つか、と想っていたが、各種目の特性を座学ながらも十分学ぶことができた、という回答が多かったことは、コロナ禍が落ち着くであろう次年度以降にも、オンデマンドをうまく取り入れた実技種目として、内容を再構築することは有効であると感じている。

ただ、あくまでもオンデマンド課題の多くは不活動であるため、どのように身体活動を増やせるか、もっと考慮する必要があった。また、学内全体の課題とはなるだろうが、学生にとっての課題量の許容範囲を再度見直す必要があると感じている。

オンデマンドの授業でも双方向性のある授業にしたいと考え、学生から提出された課題の内容を次週に紹介するということができる限り取り入れました。しかし、全員の回答をまとめるのに手一杯で、一人一人に対するフィードバックまで手が回りませんでした。今後の課題としたいです。

オンライン授業をするにあたって、学生が、自分で、無料で、合法的に視聴できる視聴覚資料を探すのが大変でしたが、「映像を多く紹介して頂けた」という意見が返ってきてよかったです。

「先生の顔が見たかった」「解説映像などがほしかった」という意見があったので、今後またオンライン授業が必要になった際には、解説映像を作ることも検討します。また、まなびネットの機能も研究し、質問なども気軽にできる環境にしていきたいです。

実験・実習科目であるため、遠隔授業で、動画などを作成して、実習の内容がわかりやすくなるように工夫している。

今回のアンケート結果を受けて、作業の動画を増やして、よりわかりやすい内容に改善したい。

初年次演習は1年生が機械工学の内容を初めて扱うため、動画などを用いて内容がわかりやすくなるように工夫している。

今回のアンケート結果を受けて、わかりやすい動画を増やして、よりわかりやすい内容に改善したい。

学生に対し講義をおこなうだけでなく、学生からの意見や質問を受け、それに答えることを重視した。

アンケートの結果は、問1、問2とも、ほとんどの学生が「強くそう思う」「ややそう思う」だったので、授業はおおむね成功していたのではないだろうか。

今後対面授業に戻る予定だが、オンライン授業にも利点はあったと思うので、学生に役立つと思われる点は継続したい。